

一般7級 事前筆記審査

会員番号: Z348 名前: 田川博士 平成 年 月 日 採点者名

---

【武道とスポーツの違いは？】

元来、武道の発祥は、戦場における闘技を体系化した「武術」「武芸」に求められるようです。近代明治以降、講道館柔道の創始者、嘉納治五郎によって武術の近代化が先導され、剣道、弓道もそれに倣って近代化され、それまでの「武術」から「武道」へ呼称を変えることで、人格形成までを含んだ内容として普及を図ったと言われていています。

近代化することで「武道」は文明開化の歴史の中で生き残ることができたのですが、武術が武道になることによって、実は近代スポーツにより近づいたという事もいえると思います。試合ルールが確立されることでスポーツとしての側面を持つことになったのであって、今日の武道では当たり前のようにある「段級制」も近代化の過程で生まれたものであると思われるます。

では、その目的とは何か？スポーツが、あくまで勝敗を目的とするプラグマティックな西欧の価値観の産物なのだとしたら、武道のそれは、伝統や文化の継承ではなく、まずは身を守る「護身能力」だと思います。そこでの最終目的は、自己陶冶にあるのではないのでしょうか。試合は自分の成長を計るバロメーターであり、成長に価値を見出して自己肯定感の育成をすることにある。たとえ上達しなくてもそれをやり続けることに意義を見出す真摯さを身に付けることにあります。

ですので、稽古は「続ける事自体」に意味があるはずで、先人の残してくれた英知を「稽古」して、その上に自分の理解と工夫を加えて試していくことが心の修行となり、更に良いものを目指して続けるというところに精神の向上が表わされるのです。

現代社会において武道を学ぶ意味は、そこにこそあるのだと思います。